

研究統括からのご挨拶 ニュースレター平成24年度冬号よせて 研究統括 河合 優年



河合優年

厳しい冬の寒さも峠を越して、春の足音が聞こえそうな季節になってきました。みなさま、お変わりなくお過ごしでしょうか？ この研究も当初の計画から10年目を迎え、今年のご協力をいただいているお子さまの大半が小学校へ入学されることとなります。また、先発グループの『すくすくコホート三重』のお子さまはすでに小学校の中学年になります。

日本ではこれまで、私どもの研究のように、多くの質問項目や観察を含めた乳幼児期からの追跡研究はありませんでした。今や研究そのものが国の宝物になってきています。これもみなさまのご理解とご協力のおかげであると感謝しております。本当にありがとうございます。

それと同時に、私たちも10年歳をとったということになります。スタート時に、みなさまに研究の説明をさせていただいた『すくすくコホート三重』の山本初実も『武庫川チャイルドスタディ』の私も、それなりの年になってしまいました。研究メンバーの入れ替わりもあり、昨年は新たに杉野が『すくすくコホート三重』に加わりました。

私たちの研究は、お子さまとともに育っています。昨今の予算削減の中で、私たちの研究も厳しい状況に置かれていますが、新たな研究予算獲得をめざし、日本における組織的な追跡研究の最長記録になるよう、研究グループ一同頑張るつもりです。これからもどうぞよろしく願っています。

武庫川チャイルドスタディ

◆観察スタッフの紹介◆

武庫川チャイルドスタディからは、研究開始当初からの古株メンバーをご紹介します。受付の佐々木に、みなさま一度はお会いいただいていると思います。「ご無沙汰しております。こちら武庫川女子大学、武庫川チャイルドスタディの佐々木です。」このような始まりで、毎年一度、みなさまにはお電話で観察の日程調整や質問紙調査のご案内をさせていただいています。0歳～6歳まではお誕生日を基準にした観察期間に来ていただくため、ご案内する時期もひとりひとりちがっています。また、お子さまが大きくなるにつれて職場復帰するお母さまも多くなり、休日にお越しいただくことも増えてきました。他にお車の利用、個別の発達相談など最大限ご希望にそえるよう、みなさまと大学側の予定をコーディネートさせていただいています。



大和、佐々木、難波、石川

観察当日は、みなさまを安全にお迎えしたり、観察中のいろんなサポートをしています。観察が終わったら、お子さまといっしょにパズルやレゴをして遊んだりもします。観察をトータルアシストする、とカタカナで言うと恰好いいですが‘何でも便利屋さん’ですね！みなさまが帰ってからも、いただいたデータや質問票、記録用紙などを整理し、保管する作業が残っています。武庫川チャイルドスタディでは、みなさまからいただいた大切なデータを個人ファイル形式で管理・保管しています。これまでに協力いただいた約6年間の回数分、ファイルは厚みを増してきて、今ではかなりの分量になりました。これもみなさまにご協力いただいた年月を感じさせる貴重な資料となっています。

今年お越しいただく方は、6歳の観察の方が多くなります。最近ではご自宅へお電話すると、お子さまご本人が電話口にてくれることがあります。長いあいだ研究にたずさわってきたからこそ、子どもたちの成長を間近に感じられる驚きつつも嬉しい瞬間です。また、お越しいただいた際には、ご家族のみなさまにも顔なじみのように声をかけていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。今回、また次回とみなさまの元気な笑顔にお会いできるのを楽しみにしています。

すくすくコホート三重

◆観察スタッフの紹介◆

今回は、すくすくコホート三重に新しくメンバーとして加わった杉野をご紹介します。昨年秋からすくすくコホート三重の観察・研究担当になりました杉野と申します。これまで県内のいくつかの病院で小児科医師として勤務し、昨年夏までは三重中央医療センターNICUに勤務していました。今年で医師10年目になります。私は、これまでは病気をもつお子さまを診ることが多く、研究にご協力いただいているような元気なお子さまたちと触れ合う機会は、仕事上ではあまりありませんでした。



山本初実



田中滋己

現在、私はこれまで観察時に撮影させていただいたビデオを繰り返し見て研究をしています。ビデオでは4方向から同時に撮影された映像を見ることができるので、指先や足先の細かい動きまで観察することができます。

みなさまは、3歳半の観察以降、「ピッピッピ」と言いながら親指と人差し指を重ね合わせる運動や、「クルクルクルッ」と言いながら肘を体につけて肘から指先までを右に左に回転させる運動をしていただいていたのを覚えていらっしゃるでしょうか。私は、こういった3歳半、5歳、6歳、小学2年生時に行っていた運動を観察して、手先の器用さやバランスの取り方、また情緒の発達などとの関係について分析するため、毎日ビデオと向き合っています。また、生後4か月のお座りのできない時期から、手足の動きを観察させていただいたので、その頃から運動の個人差はあるのかなども、今後検討できたらいいなと思っています。

すくすくコホート三重では、毎回お会いするお子さまたちの小さい頃の様子なども日々ビデオで振り返らせていただいています。そのため、初めてお会いするお子さまたちも、私にとってはこれまで何度もお会いしているような感覚があることも多く、いつもお越しいただけるのを心から楽しみにしています。お子さまやご家族にとっても、研究に参加することに楽しさを感じていただけるよう、すくすくコホート三重イチの若者(?)として、頑張りたいと思います。



森、大谷、山川、杉野、西

これからもどうぞご協力をよろしく願っています。

今後の予定

【すくすくコホート三重】

昨年末から、NICU出身のお子さまの6歳の観察が始まっています。月日のたつのは早いもので、ご協力いただいている方のうち、3分の1近くのお子さまが4月にはもう小学生です！一般のコホートでは、夏休みに小学2年生の観察を行います。110名を超える方にお越しいただく予定ですので、特に尾鷲の方を中心に日程や場所等でご不自由をおかけしますが、今までのデータを有効に活用させていただくためにも、どうかご協力をお願いいたします。

【武庫川チャイルドスタディ】

武庫川チャイルドスタディにご協力いただいているお子さまの半数以上が、今年小学校へ入学します。平成25年度春に小学校入学の方は、就学後調査という質問紙調査を春と秋の年2回計画しております。よろしく願っています。

これから6歳を迎えるお子さまは、随時お誕生日ごろに調査のご案内をさせていただいています。日々お忙しいかと存じますが、年に一度、お子さまの発達を振り返る良い機会になるよう、楽しんでチャレンジできる観察項目を準備してスタッフ一同お待ちしております。遠方への転居などで質問票のみのご参加の皆さまへも、6歳時点で質問紙調査のご案内をさせていただいています。引き続きご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

【全体】

今年の夏休みには、『すくすくコホート三重』の小学2年生の子どもたちを対象にした観察を計画しています。できるだけ日時のご希望にそえるよう調整してまいりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

『すくすくコホート三重』のNICU卒業生のコホートと、『武庫川チャイルドスタディ』にご協力いただいている早生まれのお子さまがこの春いよいよ小学校へ入学します。研究グループ一同、たいへんうれしく思っております。小学校に入学されるみなさまには、春に入学後の調査のご案内をさせていただく予定です。年長さんになれるみなさまにはお誕生日ごろに6歳児観察のご案内をいたします。よろしくお願いいたします。

研究グループ全体としては、この研究が継続できるよう、予算獲得の努力をしています。できるならば、子どもたちが青年になるまで追跡を続けていきたいと考えています。新しい政権になり子どもの育ちと学びについての研究に理解と協力を示してもらえることを期待しています。

編集後記

今回はこれまでと少し違って、研究グループの中でも協力していただいているみなさまと直接お会いしていないメンバーに、学校生活につながるようなテーマで原稿を依頼しました。子どもたちがだんだん大きくなって、みなさまの関心も学校生活に移ってきているのではという事務局の提案でした。教育心理学の松浦からは、コミュニケーションスキルの「聞く」、「話す」について、また、小児科医師の宮地からは、姿勢の大切さについての話題でした。いかがでしたでしょうか。これからもみなさまが楽しみにしていただける内容を考えていきたいと思っております。

最後に、みなさまには長期間にわたって研究へご協力いただいております。住所などに変更が生じた場合は、各研究グループの問い合わせ先までどうかご連絡をお願いします。



【すくすくコホート三重】

〒514-1101 三重県津市久居明神町 2158-5 三重中央医療センター 臨床研究部内
TEL：059-259-1211(代)

【武庫川チャイルドスタディ】

〒663-8558 兵庫県西宮市池開町 6-46 武庫川女子大学 子ども発達科学研究センター
TEL/FAX：0798-45-9880 Email：info@childstudy.jp

この研究は文部科学省の日本学術振興会 科学研究費補助金(課題番号 21243039)から研究支援をいただいています。



平成24年度
冬号

すくすくコホート ニュースレター



すくすくコホート三重・武庫川チャイルドスタディ

コラム②

武庫川チャイルドスタディ

観察室での内容が終了してから、インストラクターがお母さんに追加の質問をさせていただいています。武庫川チャイルドスタディでは、スペースの関係上、お母さんは観察室内に残りお子さんは外のスペースで遊んで待ってもらっています。外のスペースでは、いくつか遊び道具を用意してスタッフが待っています。これまでは、積木やミニカー、折り紙が人気だったのですが、最近お子さんたちとよくする遊びがジグソーパズルです。

24ピースから始まって、35ピース、48ピースと完成させていきます。気に入った絵柄からだんだんと広げていくお子さん、大人がするように端のピースから見つけていくお子さん、まさに裏の手でひっくり返して裏に書いてある番号で合わせていくお子さん、色々なやり方ですが、かなりの集中力で完成させています。

お母さんとインストラクターが話し込んでいると、十分時間をかけて完成させられるのですが、あっさり済んでしまうと途中で帰ることになってしまいます。そうすると、どうしても完成させたいのにと抗議するお子さん、完成したものを壊したくなくて片付けずに帰っていくお子さん、あっさり崩して片付けるお子さん、これまた様々な顔を見せてくれます。

お母さんから離れても過ごせる、集中して取り組む、完成させたいという強い意欲、こんなところにもお子さんの成長を感じています。



コラム①

すくすくコホート三重

すくすくコホート三重では、今年の夏に小学2年生20名の観察を行いました。1年生の時は質問票調査だけだったので、2年ぶりの再会です。みんな一段とお兄さん、お姉さんになっていてスタッフ一同うれしいオドロキでした！ 観察室の中の様子や、6歳時の観察のことなどを覚えてくれている子が多く、スムーズに観察を進めることができました。事前にお知らせした知能検査は全員が実施を希望され、みんな1時間以上の検査を最後まで頑張ってくれました。最初のうちは恥ずかしそうにしているも、きちんと受け答えをしてくれ、慣れてくるといろんなことを話してくれる子もいました。言葉で答えてもらったり、カードや積み木を使ったりしたのですが、みんな、手を動かす課題は特に意欲的にやってくれました。検査の最後の方は疲れてくるのですが、普段の授業よりずっと長い時間でも投げ出しちゃう子はなく、さすが小学生だなあと感心しました。知能検査の後は、ジュース休憩をはさんで運動です。みんな俄然生き生きしてきて、遊び感覚で楽しんでくれました。知能検査については、ずいぶんお待たせしましたが、結果の説明とコメントを一人ずつ作成してお送りいたしました。ご覧いただけましたでしょうか。

今年の夏休みも同様の観察を行います。5月には詳細についてご案内をお送りいたしますので、ぜひご一読いただき、ご協力をお願い申し上げます。みなさまに再会できるのを楽しみにしています。



こんなことがわかってきています。～すくすくコホート活動レポート～

「今回のニュースレターでは、研究グループの中でもみなさまと直接お会いしていないメンバーに、学校生活につながるテーマで話題を提供していただきました。」

すくすくコホート三重

『子どものコミュニケーションスキルと
その向上について』

三重大学教育学部教育心理学教室
松浦 均

子どもたちは、保育園や幼稚園の頃から家族集団とは異なる集団での生活が始まります。そこで様々なことを学習し、少しずつ社会性を身につけていくこととなります。しかし、小学校に上がるとこれまでとは随分違った雰囲気の中で過ごすことになり、他の子どもとのコミュニケーションがうまくとれなかったり、簡単なルールが守れなかったり、授業時間中にじっとしていられなかったりなど、クラスにスムーズに溶け込めない子どもたちが増えているようです。生活の中心が、「遊び」から「学び」に変わったことで戸惑いが生まれ、これまでのやり方ではうまくいかなくて不応が起きているということです。

このような問題に対して、学校現場ではいろんな対応がとられていますが、われわれ教育心理学教室では「コミュニケーション」の観点から、小学生を対象に実践的な活動を行っています。毎回楽しい活動メニューを用意して、コミュニケーションを学んでもらっています。

たとえば、最も基本的な「コミュニケーションスキル」として「聞く」スキルと「話す」スキルというのがあります。大人からすれば簡単なことに見えますが、実はそうではない、としておきましょう。ちなみに、お子さんの話をいつもちゃんと聞いて(聞けて)いますか。話の聞き方にはコツがあります。「相手の方を向いて」、「よそ事をしないで」、「相づちを打ちながら」、「最後まで聞く」です。カウンセリングの技法に「傾聴」というのがありますが、相手の話を最後まで聞いて、どんな内容でも受け入れるということです。そういう姿勢で話を聞いてもらえれば、子どもは「嬉しさ」とか「安心感」を得ることができます。そして、もっとたくさん話したいことを話すようになります。



一方、「話す」方のコツは、「相手をちゃんと見て」、「聞こえる声で」、「内容をはっきり明確にして」話すということです。子どもの方にも事情があり、話すのに勇気があることもあるかもしれないですが、聞く側がちゃんと聞いてくれる姿勢を示していれば、それが話そうとするきっかけにもなります。このようなやりとりを重ねていくことで、話す側と聞く側の信頼関係ができあがり、お互いの理解を深めていけるという

わけです。

コミュニケーションスキルの向上は、こういう地道な取り組みによって身につけていくものだと考えています。お家の中で自然と身につけているお子さんもいますが、いずれにしても学習によって獲得するスキルだということです。もし、コミュニケーションに問題があると思ったとき、前述のコツが使えているかどうか確認してみてください。コミュニケーションスキルをコツに分解して考えることで、どういう側面に問題があるのか、どこを補ってあげればコミュニケーションがうまくできるようになるのか、ビジョンが見えてきます。「聞く」とか「話す」とかは、普段からやっている本当に基本的なことですが、こういうことが対人関係構築の基本になっていくことですので、日常のなかで少し意識を傾けてもらえればと思っています。

武庫川チャイルドスタディ
『子どもの発達における
姿勢の大切さ』

名古屋市あけぼの学園
宮地 泰士

赤ちゃんや幼い子どもは、見るもの聞くもの全てが興味の対象であり、遊びやいたずらなどを通して物や道具を使いこなし、この世の中の様々なことについての理解を深めていきます。また、運動発達とともに子どもの活動や理解できる範囲はどんどん広がり、それがまた新たな興味と意欲を生み出していきます。このような子どもの好奇心や運動能力(活動)の発達を支える大切な要素の1つに姿勢があると私たちは考えています。

子どもの生活における姿勢の大切さを具体的に考えてみましょう。例えば、お母さんが赤ちゃんを抱っこしたりあやしたりする時、赤ちゃんの身体がグラグラしたりダラリとしたりしていると、とても重く感じてあやしづらいですね。身体の軸(姿勢)がしっかりしていると抱きやすく感

じると思います。また、寝返り、お座り、ハイハイ、立つこと、歩くことなど、全ての運動において身体の軸がしっかりとしていることは大切です。これらの運動を行うときに身体の軸が不安定だと、思うように身体が動かさません。そのために興味や活動の範囲もなかなか広がらないかもしれません。さらに姿勢の安定は道具使用や物事に対する探索行動の際にも重要です。ちょうど工事現場のクレーンが円滑に作業するためには土台と軸が安定していないといけなように、物や道具を自由自在に扱うためには姿勢の安定が必要不可欠です。姿勢を保てないことは不器用の原因となったり、肘やお腹で体を支えたり変な座り方をしたりするなど身体に負担をかけることにつながります。また姿勢が安定しないままだと、物事を見る視点が不安定で、様々な角度からの観察や物事を理解するうえでのポイントをとらえることに不自由さが生じやすくなると考えられます。そして、それを補うために、ちょうどビデオカメラのように脳の「手ぶれ補正機能」を余分に発揮しないといけなくなり、その結果、疲れやすく意欲や集中力が低下するかもしれません。実際に姿勢を安定させる援助や練習によって、子どもたちの道具使用が上手になったり、食事や勉強などに対する意欲や集中力が向上したりしたという実践報告は少なくありません。

「姿勢」という言葉には「姿勢を正す」など身体の構えや格好という意味と、「前向きな姿勢」など物事に対する態度や心構えという意味とがあります。私たちは子どもの身体と心(脳)の発達における姿勢の役割を調べ、どのような支援が子どもたちのより良い「心身の姿勢」につながるのかを追究していきたいと思っています。

